

第1回みどりのサロン お試し開催レポート

平成26年6月17日

生田緑地マネジメント会議事務局

開催概要

時間：平成26年6月12日（木）18：30～20：00

場所：生田緑地東口ビジターセンター2階

出席者：32名

最初に日本民家園の畑山氏により、古民家「工藤家」にまつわるエピソードが紹介された。その後4つのテーブルに分かれ、お茶とお菓子をとりながら途中席替えをしつつ歓談が行われた。



(1) 関心の方向性、アイデアを含む会話の一部を紹介

○生田緑地の歴史

古い写真もあるので皆で共有したい。

再来年に民家園は50周年を迎える。民家園を作ろうとした時、周りは藁ぶき屋根ばかりで誰も見に来ないと言われた。最初にアイデアを出した人はすごい。昔の民家園の中は荒地地だった。

水車小屋は2年ぶりに改修されたが4、5年前から壊れていた印象を受けた。夜間公開の時は実際に臼を使っているような演出をしている。

川崎ローム斜面崩壊実験事故の遺族の方が毎年来られ、プラネタリウムを観て行かれる。

○夜間利用の提案

金曜日の夜に大人が楽しめるような場所を作ってはどうか。最近上野の美術館は会期中の金曜は20時まで開館している。夜までやることで人々が美術館やプラネタリウム、民家園を楽しみ、帰りに駅へ向かう途中のお店で飲食し、地域に人の流れができるだろう。

○夜の安全管理

夜間はパトロールを行っているが、性善説に基づいて管理している状況である。悪い人にはやりたい放題になっていないだろうか。

○誰でも利用できるばら苑のために

来園者の多い週末、足の悪い人やベビーカーを押している人が送迎バスに乗れていなかった。聞くと80歳以上と障がい者のみを乗せる決まりがあるという。

○野鳥の森の水たまり

観察小屋の周辺に落ち葉が推積していて水場が埋まっていた。生き物に配慮して落ち葉の除去作業をしないとしても、水がないと野鳥が来ないかもしれない。

○樹名板の設置

樹名板の設置に関して、来園者のためにも設置したいが進まない。希少種の保存方法も課題である。他の緑地ではタグで識別管理をし植物を盗まれなくなったと聞く。

(2) 今後の方向性

基本的に自由に何でも話せる場ということで、会話の内容も多岐に渡った。一つのテーブルに8名程度が座り、事務局の者1名が簡単に書記をした。途中から2名と4名など一つのテーブルの会話が分かれる時があり、次回は全員が印象に残った会話のメモを提出するなどしてもいい。全体の雰囲気は終始会話が絶えず和やかであった。参加者の感想なども聞きながら開催頻度を検討していく。